

松波小学校だより

第6号
令和7年9月26日
能登町立松波小学校

実りの秋 小さな積み重ねが、大きな力に！

秋風が心地よく感じられる季節になりました。2学期が始まって1ヶ月が経ち、学校は子どもたちの元気な声と、落ち着いた学びの雰囲気に包まれています。朝の教室では、漢字練習や日直の仕事に真剣に取り組む姿が見られ、休み時間には校庭で思いきり体を動かす子どもたちの笑顔が広がっています。気候も少しずつ過ごしやすくなり、学びにも体力づくりにも前向きに取り組める、そんな季節がやってきました。

2学期は「積み重ね」が大切な時期です。授業では、新しいことを学ぶだけでなく、1学期の学びをさらに深めたり、応用したりする場面が多くなります。一人ひとりが「わかる」「できる」を実感できるよう、担任や教科担当が丁寧に声をかけ、学びの土台をしっかりと築いているところです。また、クラスの中でも友だち同士が教え合ったり、励まし合ったりする場面が増え、互いに学び合う空気が育ってきています。

今月12日には、松波小学校の伝統行事である「第52回校内相撲大会」が行われました。土俵の上で見せた真剣なまなざし、取り組みが終わった後の晴れやかな笑顔、そして勝っても負けても相手をたたえる礼儀正しい姿に、子どもたちの心の成長を感じることができました。それぞれが日々の練習の積み重ねを生かし、自分の力を出し切った姿は、見ている私たち大人にも深い感動を与えてくれました。



そして10月には、もう一つの大きな行事である「マラソン大会」が予定されています。自分のペースで最後まで走りきることを目標に、子どもたちは体育の時間を中心に少しづつ練習を重ねています。距離だけでなく、「あきらめない心」「挑戦する気持ち」を育む機会となるよう、私たちも声をかけていきたいと考えています。

いずれの行事においても大切なのは、結果よりもそこに至るまでの過程です。うまくいった経験も、思うようにいかなかつた経験も、すべてが子どもたちのこれから成長につながっていきます。

ご家庭におかれましても、日々の学習や行事への取り組みについて、お子さんの頑張りに耳を傾け、ぜひ温かい言葉をかけていただければと思います。学校と家庭がともに子どもたちの歩みを支えていくことで、この秋も、たくさんのお「実り」を迎えることができると信じています。

今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

能登町立松波小学校
校長 宮本 秀人